

青少年のための科学の祭典2014全国大会に出展（東京都支部）

JARL東京都支部では、千代田区北の丸公園にある 公益財団法人 日本科学技術振興財団『科学技術館』主催の、『青少年のための科学の祭典2014全国大会』に本年も7月26日（土）27日（日）の2日間の開催に出展致しました。

この全国大会当支部として最初に出展したのは、平成12年(2000年)以来で、途中の平成19年に急遽都合により出展出来ませんでした、回を重ねて今年で14回の出展となりました。

毎年来場者皆様に、電波はそんなに重要なものと再認識して戴く為に、平成18年出展から昨年までのテーマは、『電波の性質を目で見て体験しよう！』で出展しておりましたが、今年の出展テーマは『電波の反射・通過・波長を確かめよう！』で、電波、一言で簡単に言いますが、現代社会では水そして電気と同様電波は生活の中に溶け込んで、湯水の様は何の抵抗もなく使っておりますが、人間が生きて行くことが出来ない重要なものだと理解されている人は少ないのではないのでしょうか。



内容は次の4項目を当ブースでは実演しそして体験をして戴きましたが、先ず一番目は八木・宇田アンテナの特性の実演、そしてその歴史についての説明、二番目は子供さん達には大変難しい言葉ですが、水平・垂直の偏波の実演、並びに来場者によるアンテナを並行・水平に向けての壁面に設置したLEDランプの点灯不点灯の体験、そして三番目は電波には長さ『波長』があり、その長さの計算式の説明、並びに巻尺アンテナでの点灯体験、四番目は、電波を通す物体、通さない物体、そして反射する物体についての実演を行いました。

特にパラボラアンテナ（中華鍋）の原理についての説明と実演、並びに体験をして戴きました。

毎年講演講師には、支部の監査指導員並びに青少年対策委員の皆様をお願いしてありますが、前年度の反省を基に来場者に電波の重要性を分かって戴くかが議論されますが、内容的には平成18年から同じ出し物ですが、毎年実演機材については研究創意工夫し作成して臨んでおります。



何しろ実験機材は、メーカーでは製作販売してないものばかりですので、作っては壊しそして又作るで、至難の業であります、又それが電波を理解することの奥深いものだと再認識をすること多く、完成した暁時の喜びは又倍増となります。

しかし誠に残念なことに演技そして体験コーナーで、小学生達には少し難しく電波の不思議には興味を持ち体験して関心して戴けるのですが、理解をして戴けません。

中学性・高校生の年代になると、携帯電話機は無線電話とは分かっているものの、電波は空気や水と同じで無限大にあるような考えの人達が多く、電波は有限有料で電波法と言う法律があり、違反した場合は罰せられるとの認識が無くて大変残念であります。

その反面学校の教師や、電波について興味のある成人者は電波の不思議さを見て感心し体験され、そして

質問攻めが多く返答に苦慮する場面が多いのですが、又この場で電波の奥深さそして不思議さを反対に勉強させられる場面も多々ありました。

昨年は当ブースへ韓国の学生さん達の来所者が約90名あり、皆様大変熱心で真剣で質問も多くて説明者のJH1WOB青木さんは2日間大活躍でしたが、今年はどうかと思ってハングル文字パンフレットを用意致しましたが、残念なことに本年は0名でした。

又一昨年までは同じく中国人学生が当ブースにも来所しJN1KEJ 積田さんに中国語の実験解説書を作って戴いたのですが、尖閣諸島等の国交問題か分かりませんが昨年同様本年も当ブース来所者はありませんでした。

本年度の出展数は82団体、昨年は77団体、次に入館者数本年は13,655名、昨年は14,043名、一昨年は11,119名でありました。

当ブースへの来場者は、7月26日(土)175名、7月27日(日)160名で合計335名でした。

最後になりますが、毎年同じ感想ですがゲーム感覚のブース等は順番待ちの状態ですが、当ブースの場合【電波】の言葉は雲をつかむ様な言葉でして、日本の中・高生年層は科学技術に対して関心度の薄さを感じさせられました。

今後子供さん達はその時だけ楽しめればよいものではありませんので、電波を通じて日本の将来の科学技術に少しでも貢献できる様なテーマ、並びに出展内容について支部としては難しい宿題であります。

以上